

近畿経済産業局管内の経済動向

資料1

近畿地域の経済は、やや弱含んでいる。

1. 全体の動向

大型設備投資の拡大やアジア向け輸出が好調であるものの、個人消費や雇用にやや弱い動きがみられるほか、原油・原材料価格の高騰により企業収益が悪化するなどやや弱含んでいる。

2. 個別の動向

(1)生産 ～弱含みで推移～

太陽電池や薄型パネル等が好調なものの、景気の先行き不透明感から機械投資を見合わせる動きがみられ、機械器具等資本財が落ち込んでいる。

(2)設備投資 ～総じて増加～

不動産や運輸の減少に加え、中小企業に引き続き慎重な姿勢がみられるが、薄型パネルや電池関連など大型投資の拡大が継続している。

(3)雇用情勢 ～やや弱い動き～

新卒採用や技術者採用では売り手市場が継続しているものの、今後採用を抑制する予定の企業もみられる。またハローワークにおいては、派遣請負適正化と先行き不透明感により求人数が減少している。

(4)個人消費 ～やや弱い動き～

薄型テレビ、エアコン等は好調だが、賃金が横ばい、エネルギー、食品等の物価上昇を背景に節約の動きがみられ、衣料品等の減少幅が拡大している。

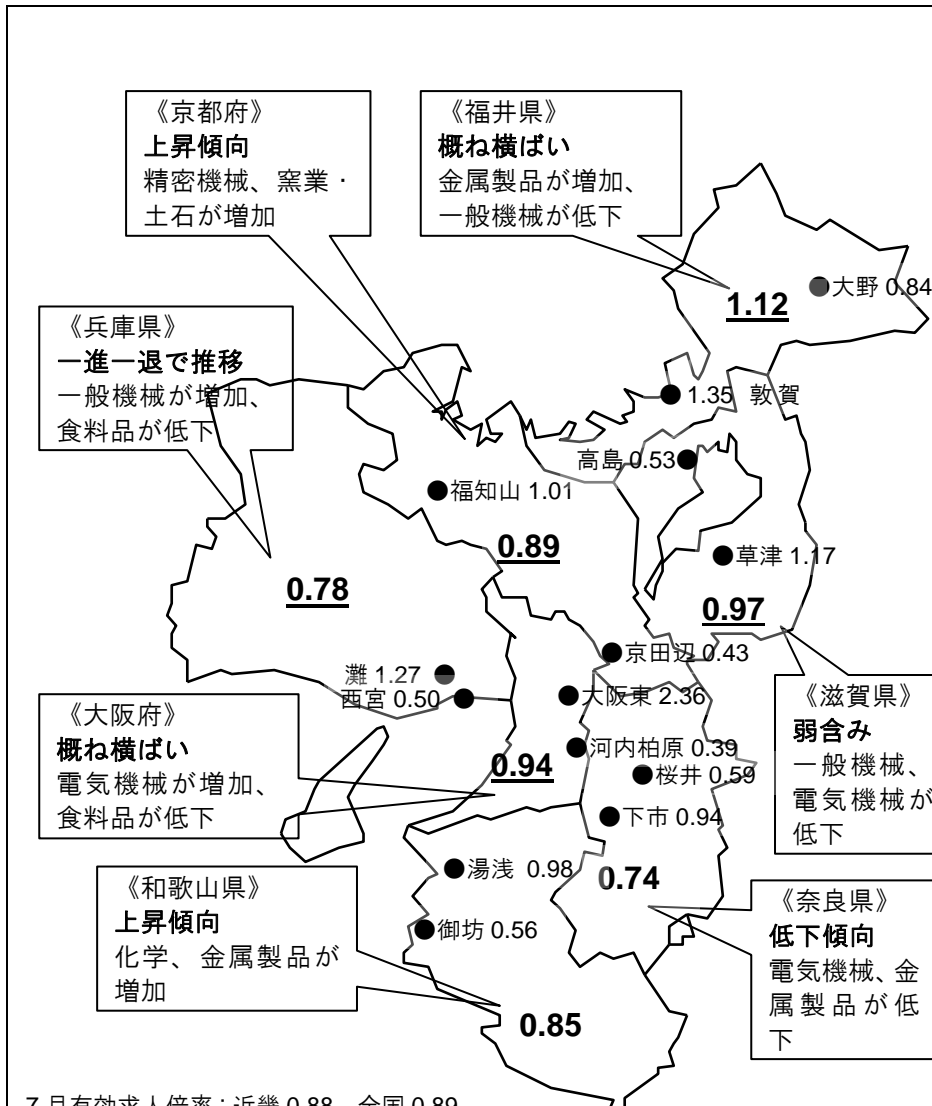
(5)貿易 ～輸出は概ね横ばい～

米国向け輸出が減少しているが、一般機械、電気機器を中心に中国をはじめとするアジア向け輸出が好調で、全国を上回って推移している。

3. 地域経済のトピックス

○原油・原材料の更なる高騰により、収益圧迫等の影響を受けている企業が拡大。価格転嫁が徐々に進展しているが、特に中小企業や川下の業種では、厳しい状況。生産工程、物流の効率化や設計の見直し、省エネ投資等によりコスト削減を強化するも上昇分は吸収しきれず収益が悪化。

○「※パネルベイ」に係る工事・資材発注やホテル建設が進展するとともに、薄型、太陽光パネル関連産業の進出や設備能力の増強に加え、中小企業とのマッチング商談会等の取り組みもみられるなど今後の取引拡大に期待。



7月有効求人倍率：近畿 0.88 全国 0.89

・ 下線文字は府県の7月有効求人倍率（季調値）

・ ●は、ハローワーク別の7月有効求人倍率（原数値）

□ は生産の状況

※パネルベイ：松下、シャープ等が大
阪湾岸に薄型パネル等の大型設備
投資計画を集中。